

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400027		
法人名	株式会社かいごのみらい		
事業所名	グループホーム乙姫の家		
所在地	熊本県阿蘇市乙姫2142-10		
自己評価作成日	令和4年11月7日	評価結果市町村受理日	令和5年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

阿蘇の大自然のもと、緑が豊かな土地で「乙姫の家の家族」としてご入居者様、ご家族様、地域の方々を支えられ開設13周年を迎えました。ご入居者様の思いを尊重し継続できるよう、共に支えあいながら生活しております。日中はそれぞれの楽しみのある時間を過ごしていただけるよう活動の時間であったり、余暇の時間を設けております。行事ではおやつバイキングであったり、夕涼み会、運動会等、一人一人が楽しく思っただけよう計画しております。職員それぞれも、日々の業務以外にも居室担当や委員会活動、行事担当等を通して責任感を持ち、ご入居者様のことを考え行動しております。私たちはこれからもご入居者様が安心・安全に過ごしていただけるよう取り組んで参ります。そして「乙姫の家の家族」として共に成長して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年という経年のなかで、これまでの礎を築き上げた前任の管理者の思いを引き継いだ管理者のリーダーシップのもと、充実した委員会活動による業務改善やハード面での環境等一層充実させている。理念に掲げる「縁あって家族」をケア規範とし日々の生活に直結させ、ユニット同士の垣根を越えた交流は日常生活の潤いとして生かされ、職員一人ひとりが自然体で入居者に寄り添い、100歳を迎える入居者同士が労いながらの生活ぶりに馴染みの場所である事が表われている。開所記念日には家族会も開催する等家族との信頼関係を築き上げている。運営推進会議では善し悪しに関わらず開示する等透明性のある運営体制であり、これまで築き上げてきた地域の中での生活にコロナ禍といえどもできる事に注視しながらの交流への取り組みや、今できる事に真摯に向きあうホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長い面会制限の中、可能な限りご家族様との関わりを途切れさせないよう、手紙や広報誌、定期のご家族様への電話(ご入居者様のご家族とお話する)、窓越しでの面会、対面での面会に取り組んでいる。	法人としての経営理念等とともに、ホームとして基本理念3項目を掲げるホームでは、基本理念とともに身体拘束排除宣言の唱和により日々のケアに反映するとしている。また、毎年事業計画の中で目標を掲げている。基本理念の一つに家族や地域との結びつきについては、コロナ禍という規制ある生活に潤いある日常とすべく一つのユニットに集結し会話をする事で刺激を与え、規制緩和時には玄関席での短時間面会等家族との関係に注視しており、家族とともにあるホームが形成され、「縁あって家族」とする思いが随所に表われたホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策の為、外部との交流は少なくなってきたが、子育て支援センターの先生方から、七夕や敬老の日には飾りを持ってきてくださったり、阿蘇中央高校の実習生の受け入れなど、可能な限り行っている。	開設13周年を迎えたホームでは、地域住民との入居者との交流そのものは減少してはいるが、これまで築きあげてきた関係は継続しており、子育てセンターとの相互交流として子どもの手形やメッセージカードが寄せられ、高校の実習生の受け入れ等により交流の場を持つよう関わり、毎年開設記念日には近隣に赤飯を持ち届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	かいごのみらいのホームページより、ほのぼの日記と題したブログを更新し、行事や活動など日頃の様子を発信している。また、運営推進会議を通してホームの近況報告に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況報告書、行事・活動報告書、ヒヤリハット・事故報告書、広報誌などをお伝えし、ありのままの乙姫の家を見ていただきながら、有意義な話し合いが行っている。	運営推進会議ではホームの現状や事故・ヒヤリハット事例等良し悪しに関わらず開示する体制として、日常生活は”おとひめ通信”により発信している。コロナ感染症の状況を鑑み書面審議とした際には口頭での意見を受けて意見等を紙面での返信へと変更しており、地域の情報や開催方法への意見等が出されている。メンバー構成も充実し、参加の無い家族にも書面郵送による共有化としている。対面での会議開催時には双方向の活発な意見が交わされる等充実した会議である。	参加委員からのどのようなリスクがあるのかを知る事で、ヒヤリハットがもっと理解し易いという有意義な意見も出されている。今後も入居者の日常生活のリスクについて情報を発信していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区町村の担当者様には乙姫の家について知っていただけるようこまめに連絡を取り合い、アドバイスをいただきながら協力関係が築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議の案内状を持ち届けながら情報を発信し、経済的な問題を受け福祉課へ相談する等毎月担当部署に出かけている。新型コロナの接種券は行政担当部署からまとめて持参され、ホームも阿蘇市の非常災害時マニュアル作成に協力する等協力関係を築いている。また、福祉避難所として場所提供も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げる中、3カ月に1度の身体拘束適正化委員会による、アンケートの実施や、身体拘束・虐待・リスクについての研修会を行いながら日頃のケアを振り返っている。	身体拘束排除宣言の趣旨を朝礼時に唱和することで日々意識を持ってケアに当り、身体拘束適正化委員会での検討や勉強会により意識強化を図っている。転倒リスクにより人感センサー使用時には本人若しくは家族の同意を得て使用するとしている。入居者個々の外出の傾向等把握し、見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けた取り組みとして、入社時のオリエンテーションで高齢者虐待防止テキストを用いた研修と、リスク委員会より定期的な研修を行い、虐待の防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、利用しているご入居者様もおり理解している。権利擁護の研修を通して理解を深めることができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	感染症対策の為、施設内の見学は場合によっては控えていただき、口頭以外にも写真等で見ていただき、回らなくても施設内の設備や、活動、雰囲気など伝わるよう取り組んでいる。契約時には時間をかけ丁寧に説明するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はコロナ感染症対策の為、対面での開催は出来ていないが書面にて報告し、お電話などで意見をいただけるよう取り組んでいる。また、面会時などにご家族様の要望や意見を聞いている。	13周年を迎え、短時間ではあるが家族会を開催し、スライドショーでの日常開示や家族同士の交流の場を作る等感染症での制約の中で感染対策の徹底により出来ることに取り組み、家族には受診や日頃の様子を発信している。管理者は家族の中には意見等があっても我慢されているのでは無いかと捉え、少しでも意見をもらいたいとし、面会に対する対応への意見を受け、面会マニュアルを作成し統一した対応に努めている。	玄関には家族と職員との関わりが少なくなりつつあると捉え、家族会の中で紹介されている。家族が入居者と気軽に会える状況になるまでには時間も要すると思われ、100歳の迎えられる入居者等高齢化傾向に有り、月毎に開催されている誕生会に誕生月の家族だけでもを招待出来ないか等検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームのケア会議には社長や本部職員も参加されホームの現状などについて職員と直接話す機会も多くある。また、管理者会議等でも各ホームの意見を聞き、把握、反映されている。	ケア会議時には全体で清掃に取り組んだ後に会議に入り、このホームの礎を引き継いだ管理者のリーダーシップと職員の協力により次にステップに向け努力している。開設しての経年は否めず外壁や屋根、機械浴の導入等ハード面での充実を図ると共に、業務改善委員会やリスク委員会等の委員会活動により職員個々が志向を高くして臨み、職員の意見は各ユニットの主任がまとめ管理者へ相談する体制とし、管理者も年2回の個別面談により職員の意見等を収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の理念に沿いながら、業務改善や帳票の見直しを行っている。また、人事考課では上半期、下半期に個人面談を行い目標設定をする中で、一人一人、職員の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修には研修の案内を掲示し、参加希望者を募り受ける機会を設けている。また、法人として初任者研修と実務者研修の開講を予定しており、資格のない職員も受講しやすい環境となるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿蘇市で行われた感染症の研修に参加し、同業者との意見交換することができた。気軽に訪問する機会は減ったが、リモート会議や電話等で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規ご入居者様の困りごとや要望等耳を傾けながら今までの暮らしを大切に環境整備を行っている。安心して生活いただけるよう他のご入居者様、職員とコミュニケーションを多く取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居者様に生活歴等大切にしていることや困っていることを聴きとりながら、その人を共に支える関係作りに努めている。日頃の様子や何か気になることがあったらこまめに連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居に当たり、ご本人様もご家族様も不安を感じている事をしっかりと汲み取り、今何が必要で何を不安に感じているのか、しっかりと聴きながら、不安が取り除けるよう分かり易く説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	乙姫の家の理念「縁あって家族の思いで」を大切に共に暮らす関係を大切にしている。ご本人様が出来ることはさせていただき、職員もご入居者様に支えられていることを理解し、感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から日常の様子を伝え、共に支えあう関係づくりに努めている。月に2回、ご家族様とご本人様がお話する機会を設け、職員が伝えるだけでなくご本人様と話すことで直接気持ちを伝えられるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出制限もあり、気軽に外出する機会は減ったが、花見や紫陽花見学など昔から慣れ親しんだ土地へドライブに出掛けている。また、馴染みの美容院へカットへ出掛けたり、買い物に出掛けている。	四季折々の行事や桜、あじさい等馴染みの場所での花見や、行きつけの美容室の利用、郵便局でのお金の出入れ等馴染みの場所への外出や社会性の継続等を外出制限の中で少しずつ外に出る機会を作っている。また、同じ地区からの入居者やもともと知り合いだった方等入居者同士が馴染みの関係が出来ている。感染状況を見ながら、家族と相談し、墓参りに出かけ、我が家に立ち寄る等家族の協力も得て支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の活動の中で、ご入居者様同士で考えたり、手順を教えたり、誉めあったりされている。孤立しないよう職員が間に入ったりし、お互いが気遣い、優しい言葉かけをされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の転居であれば、情報提供を行い、安心してサービス利用ができるよう支援している。亡くなられた方には初盆にお参りをさせてもらうなど、ご家族様との関わりも継続できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から、ご本人様のご要望に応えるべく、傾聴し、ご本人様の思いを皆で話し合い、実現できるように努めている。職員本位にならないよう職員それぞれの意見を出し合いながら、ご本人様の意向に添えられるよう取り組んでいる。	入居者の声を生かした献立や入居者同士の会話から思いを聞き取りしたり、意思疎通が難しい場合には表情での把握や、会話にならなくてもじっくりと向きあい、耳元での声掛け等一人ひとりの状況を踏まえて意向等を引き出している。「パーマを掛けたい」など直接の申し出もあり、その思いを実現させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居される前の面談であったり、担当されていたケアマネからの情報を基に、ご本人様の生活歴や暮らし方の把握に努めている。ホームで生活されてから知ることもあるのでその都度職員間で情報共有できるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの状況、現状把握に努め1人ひとりの力(能力)を発揮できるよう必要な支援の見極めを行い機能維持につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当をはじめ、スタッフの気づきや違った目線からの意見を大切にしている。ご本人様、ご家族様の意見を基にそれぞれの意見や思いを反映した介護計画を作成できるよう取り組んでいる。	個人記録をプランに即した日々記録の中で見出された事案の話し合いや、カンファレンス時には支援上の問題点や留意事項等を話し合い、プランの見直し内容の確認及び検討として生かしている。定期的には半年毎に見直すこととして見直し時にはまず担当職員によるアセスメント、ケアマネジャーが再確認する体制としている。職員の日々の気づきや観察結果が反映され、具体的且つ詳細な個別プランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に残し、必要なニーズを職員間で話し合う材料としている。記録や実際に目にしたことを報告、相談しあいながらケアプラン作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、そのご家族様、その時々生じる思いであったり、希望に添えるように多職種とも連携し、その時にあった支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策に伴って、外出や、社会資源の活用はあまり出来ていないが、おやつバイキングや夏祭り等のイベントを行ったり、季節を感じていただくよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医への相談や報告は看護師を通して行い、主治医からの意見などもご家族様へ報告し、ホーム、ご本人様、ご家族様で情報を共有できるよう取り組んでいる。	契約時にかかりつけ医について説明し、本人・家族の意向を確認し、主治医の継続や入居を機に訪問診療に移行する方もおられる。遠方の医療機関をかかりつけ医とする方には家族とともに職員も同行し、情報の共有及び負担軽減に努めている。皮膚科等の専門医の受診は家族の支援としているが、家族の付き添いが難しい場合には職員が同行している。歯科は訪問診療としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察の下、気になるところは看護師や多職種のスタッフと情報を共有している。直接、支援するものでしか気が付きにくい事を主治医へ伝わるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は、安心して治療できるよう準備をしている。環境の変化からADLの低下とならないよう早期退院できるよう情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取りの指針について説明している。看取りになった場合は医療機関と連携し、ご本人様やご家族様の意向に沿えるよう話し合いの場を設けている。今年度の5月に看取りを行い、現在も看取り支援の方1名が入所中である。	入居の際、看取り指針を基にホームの方針を説明している。その後の入居者の状態をみながら、食事量の低下等心配な点があれば主治医を交えた家族との話し合いを行い、今後の対応を決定している。看取り支援については変化する家族の思いに寄り添い、その都度確認しながら対応している。看取りケアであっても、誕生会等の行事に参加してもらい、楽しい一時を支援している。	職員はカンファレンスを重ねて支援の見直しを図り、最良の方法を検討している。今後も、主治医や家族と連携し入居者の意向を汲み取った支援が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様の急変時や事故発生時に備え、内部研修を行っている。処置の方法や連絡体制など、その日にいる職員で対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に内部研修を行っており、年2回おこなう避難訓練では、より実践に近づけて、夜間想定での訓練を実施している。今年度からは消防隊員立ち合いの訓練も再開した。	本年度は5月と10月に消防署や防災業者の立ち会いのもと、夜間想定火災訓練を実施している。訓練結果は回覧により全職員が共有し次回の訓練に反映することとしている。地理的に阿蘇山の噴火や土砂災害の心配はあるが、机上訓練を含めた研修会(停電の場合の食支援方法等)や積雪の季節には法人より除雪の協力が得られている。ホームは福祉避難所として、地域の防災の一端を担っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の出入り時のノックや、電気を消す、点けるなど細かい部分でも確認、居室へ入る際の声掛けを徹底して行っており、ご本人様のお家という思いで支援を行っている。	居室はあくまで入居者の自宅であるとして入居時にはノック、排泄用品の交換の際は必ずドアを閉めることを徹底している。入居者の要望に直ぐに応じられ無きときは、「この用事が終わりましたよ」等安心してもらうような声かけや、聞こえづらい方には耳元でゆっくりと話しかけるようにしている。個人情報については、ホームページも活用することで入居時に同意を交わし、入居者視点でのケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に自己決定していただけるよう日頃から声かけさせていただいている。自己表現が難しい方でも表情や仕草、筋力の緊張から読み取り確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のタイムスケジュールはあるが、ご本人様の体調や希望に寄り添いながら、その日、その日でご本人様のペースで生活していただけるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事でファッションショーを開催し普段着ないような服装をしていただくなどおしゃれを楽しんでいただいた。自己決定されるよう声かけをし、身だしなみやおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事の中で好きな物や苦手な物、食べにくい物などを把握し、その後の食事に活かしている。食事作りでは栗の皮むきをされたり、普段から食器拭きをしていただいたりしている。	調理選任の職員2名が交代で商事作りに関わり、給食委員会による入居者への聞き取りアンケートで上ったメニュー等を献立に反映させている。個々の食形態に応じて提供しているが、職員はミキサーやきざみ食にする前に常食を見てもらい食への期待や安心して食べてもらう工夫している。おやつも入居者の楽しみとなっており、おやつバイキングでは、外食の気分にしたってもらうと共に選択の機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べれる量や形態、水分量の把握し、水分量が少ない方にはお茶ゼリー対応する等、その人に合わせた支援をしている。食事をする中でご本人様が食べやすい食器やスプーン等も検討しながら栄養摂取、水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さをスタッフが理解し1人ひとりの状態に合わせた支援ができています。食前のお茶うがいで口腔内乾燥防止、夕食後の舌磨きも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を行い、声かけのタイミング等、どの職員が対応してもご本人様が安心して排泄できるよう情報の共有を行っている。排泄時に気づく皮膚の状態であったり、変化に気づくことができるよう取り組んでいる。	個別の排泄パターンを把握し、その方に合った声かけや誘導により排泄を支援している。中には自らトイレに向かい自立されたかたもおられる。排泄用品も時間帯や体調によつての使い分けにより適切な排泄用品を提供し、退院後等にはカンファレンスを開催し、入居者の排泄状態に合わせている。ポータブルトイレ使用时には、職員がすぐに対応できるよう側に付き添い、ポータブルトイレも気持ちよく利用できる状態に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便意の兆候に気づき腹部マッサージ等、スムーズに排泄できるよう支援している。起床時の水分補給の支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴拒否がある方は時間をずらしての声かけや無理にお誘いはせず日を改める等、個々に沿つた支援をしている。また、機械浴を使用し浴槽で体を温めることが出来ている。	週2回の入浴日を設定し、入居者に合わせて支援している。機械浴を利用する方が増えてきており、浴槽にゆっくり入ることが出来ている。入浴を面倒がり拒否される方には、手・足のみ洗うことから進めたり、足湯や入浴剤やゆず・菖蒲などを活用し楽しく入ってもらよう工夫している。浴室に新たにエアコンを導入し、寒暖差に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動やご本人様のしたいことに取り組んでいただき夜間、安眠できるよう努めている。日中、気分の優れない方へは無理をせず休んでいただいたり、その時々状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録の中に最新の処方箋がいてあり、副作用等の注意点の確認ができるようになっている。内容の変更があったときは変化に意識を向け情報共有し、何か変化に気づいた時は主治医へ報告できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で茶碗拭きや洗濯たたみ等力を発揮されている。居室にラジオを用意し音楽を楽しまれたり、間食等で気分転換を図られたり、その方の楽しみのある生活が送れるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症対策の為、外出などは以前に比べ減ったが近隣へのドライブなどは定期的に開催している。感染状況を見ながら、馴染みの美容室へ出かけたりし、閉鎖的にならないよう努めている。	季節毎に地域へドライブに出かけ、季節の桜・あじさい等の花見学を支援している。職員と地域の郵便局まで出かけたり、美容室での散髪、商店での買物等個別に支援している。テラスで外を見たり、ユニット合同で壁面飾りの手作りや、DVDを活用した識名時代劇を楽しんでもらう等外出に代わる室内活動を充実させている。	コロナ禍にあるが、今できる外出を支援されており、今後も入居者の外出したいとの思いを引き出す工夫に期待される。寒い時期には外出もままならないと思われ、現在垣根を越えて取組まれている体操や個別支援を継続いただき、気軽に出かけられるような時期に備えていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方もおり、ご本人様の希望に沿えることができるようご家族様と相談しながら支援している。買い物の希望があった場合、感染状況を見ながらご本人様と買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期の電話ではテレビ電話で顔を見ながら会話していただいている。お手紙もご本人様がはがきに書いてスタッフが預かり投函したりしている。ご本人様が電話したい時も可能な限り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの掲示板には四季を感じるができるようご利用様と一緒に制作活動をしている。ご入居様が不快や混乱を招かないよう環境整備に取り組んでいる。	ワンフロアの広いユニットをお互いに行き来することで入居者同士の交流を図り、生活リハビリとして活用している。リングテーブルを相性や入居者の希望による席配置とし、自身の居場所として落ち着いて過ごせる環境としている。空間の所々に椅子を配置して入居者が腰を下ろす場所を設け、リビング前の改修工事によりより安全で活動の幅を広げている。開設13年の記念の特大パネルに全入居者及び職員の生き生きとして表情を紹介している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご入居様同士でそばに座られたり、あいさつをされ、心を通わされている。表情を見ながら落ち着いて過ごされる空間作りができるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその人に合った物、配置だったり写真や誕生日の色紙を飾り安心して過ごせる居室となるよう取り組んでいる。	居室に、入居者の1年分の個人作品綴りを置き、楽しみ事の一つとしてながめておられる。模様替えは入居者と相談して決め、動線等を確認して配置している。新たに入居する家族へは、これまで使いなれた品を持ち込んでもらうよう依頼しているが、テレビはリビングで見られることが多くなり、部屋で使うことがなくなれた例もある。各窓からは季節毎に自然の景色を楽しみ、落ちついた空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの自操やシルバーカーが安全に使用できるよう環境整備やご本人様のできることの把握をし、車いすのブレーキやトイレの動作等も見守り、自立した生活へと繋げていけるよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391400027		
法人名	株式会社かいごのみらい		
事業所名	グループホーム乙姫の家 (きじまユニット)		
所在地	熊本県阿蘇市乙姫2142-10		
自己評価作成日	令和4年11月7日	評価結果市町村受理日	令和5年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

阿蘇の大自然のもと、緑が豊かな土地で「乙姫の家の家族」としてご入居者様、ご家族様、地域の方々に支えられ開設13周年を迎えました。ご入居者様の思いを尊重し継続できるよう、共に支えあいながら生活しております。日中はそれぞれの楽しみのある時間を過ごしていただけるよう活動の時間であったり、余暇の時間を設けております。行事ではおやつバイキングであったり、夕涼み会、運動会等、一人一人が楽しく思っただけのよう計画しております。職員それぞれも、日々の業務以外にも居室担当や委員会活動、行事担当等を通して責任感を持ち、ご入居者様のことを考え行動しております。私たちはこれからもご入居者様が安心・安全に過ごしていただけるよう取り組んで参ります。そして「乙姫の家の家族」として共に成長して参ります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年11月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長い面会制限の中、可能な限りご家族様との関わりを途切れさせないよう、手紙や広報誌、定期のご家族様への電話(ご入居者様にご家族とお話する)、窓越しでの面会、対面での面会に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策の為、外部との交流は少なくなってきたが、子育て支援センターの先生方から、七夕や敬老の日には飾りを持ってきてくださったり、阿蘇中央高校の実習生の受け入れなど、可能な限り行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	かいごのみらいのホームページより、ほのぼの日記と題したブログを更新し、行事や、活動など日頃の様子を発信している。また、運営推進会議を通してホームの近況報告に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況報告書、行事・活動報告書、ヒヤリハット・事故報告書、広報誌などをお伝えし、ありのままの乙姫の家を見ていただきながら、有意義な話し合いが行えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区町村の担当者様には乙姫の家について知っていただけるようこまめに連絡を取り合い、アドバイスをいただきながら協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げる中、3カ月に1度の身体拘束適正化委員会による、アンケートの実施や、身体拘束・虐待・リスクについての研修会を行いながら日頃のケアを振り返っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に向けた取り組みとして、入社時のオリエンテーションで高齢者虐待防止テキストを用いた研修と、リスク委員会より定期的な研修を行い、虐待の防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、利用しているご入居者様もおり理解している。権利擁護の研修を通して理解を深めることができるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	感染症対策の為、施設内の見学は場合によっては控えていただき、口頭以外にも写真等で見ていただき、回らなくても施設内の設備や、活動、雰囲気など伝わるよう取り組んでいる。契約時には時間をかけ丁寧に説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はコロナ感染症対策の為、対面での開催は出来ていないが書面にて報告し、お電話などで意見をいただけるよう取り組んでいる。また、面会時などにご家族様の要望や意見を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームのケア会議には社長や本部職員も参加されホームの現状などについて職員と直接話す機会も多くある。また、管理者会議等でも各ホームの意見を聞き、把握、反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の理念に沿いながら、業務改善や帳票の見直しを行っている。また、人事考課では上半期、下半期に個人面談を行い目標設定をする中で、一人一人、職員の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修には研修の案内を掲示し、参加希望者を募り受ける機会を設けている。また、法人として初任者研修と実務者研修の開講を予定しており、資格のない職員も受講しやすい環境となるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿蘇市で行われた感染症の研修に参加し、同業者との意見交換することができた。気軽に訪問する機会は減ったが、リモート会議や電話等で情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居いただく前に面談を行い、好みや困っていること、不安に感じていることを聴かせていただいている。また、ホームで取り組んでいることなどもお伝えし、どのような生活を送ることができるか一緒に考えながら取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思うこと、ホームで生活することをお願いしたいこと等を伺い、プランに反映している。ホームで行っている取り組みもお伝えし、共にご本人様を支える関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居に当たり、ご本人様もご家族様も不安を感じている事をしっかりと汲み取り、今何が必要で何を不安に感じているのか、しっかりと聞きながら、不安が取り除けるよう分かり易く説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「縁あって家族の思い」で、お互いを支えあい、助け合いながら生活を行っている。時には職員の相談などにも乗って下さり、良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1回/2か月は、各居室担当者が手紙で近況報告などを行っている。また、毎月のご本人様の様子がわかるように日頃の活動の様子を写真に撮り見ていただいている。定期の電話連絡も行い、ご本人様とご家族様が話せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ感染症の為、外部との交流も減ってきているが、季節ごとにドライブに出掛け、慣れ親しんだ土地の見慣れた風景を楽しんで頂いたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の活動の中で、ご入居者様同士で考えたり、手順を教えたり、誉めあったりされている。孤立しないよう職員が間に入ったりし、お互いを気遣い、優しい言葉かけをされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の転居であれば、情報提供を行い、安心してサービス利用ができるよう支援している。亡くなられた方には初盆にお参りをさせてもらうなど、ご家族様との関わりも継続できるように努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃からご本人様のご要望に応えるべく、傾聴し、ご本人様の思いを皆で話し合い、実現できるように努めている。職員本位にならないよう職員それぞれの意見を出し合いながら、ご本人様の意向に沿えることができるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期には、ご本人様、ご家族様や担当ケアマネに情報提供をお願いし、生活歴や病歴などの確認を行っている。その中でホームで生活されて見えてきた思いであったり暮らし方をお聞きし、実践している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し、1回/3か月のカンファレンス、課題や思いについて状況把握に努めている。定期的なアセスメントも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が、聞き取りを行い、その内容をご家族様や、職員に共有し、双方の意見をしっかりと取り入れながら、みんなの意見が反映された介護計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に残し、必要なニーズを職員間で話し合う材料としている。記録や実際目にしたことを報告、相談しあいながらケアプラン作成に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、そのご家族様、その時々生じる思いであったり、希望に添えるように多職種とも連携し、その時にあった支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策に伴って、外出や、社会資源の活用はあまり出来ていないが、おやつバイキングや夏祭り等のイベントを行ったり、季節を感じていただくよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医への相談や報告は看護師を通して行い、主治医からの意見なども御家族様へ報告し、ホーム、ご本人様、ご家族様で情報を共有できるよう取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察の下、気になるところは看護師や多職種のスタッフと情報を共有している。直接、支援するものでしか気が付きにくい事を主治医へ伝えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリー以外にも直接、情報を伝えるなど、入院退院がスムーズに行えるよう、病院側と密に連携をとっており、ご家族様ともその時々状況をお伝えしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取りの指針について説明している。看取りになった場合は医療機関と連携し、ご本人様やご家族様の意向に沿えるよう話し合いの場を設けている。今年度の5月に看取りを行い、現在も看取り支援の方1名が入所中である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様の急変時や事故発生時に備え、内部研修を行っている。処置の方法や連絡体制など、その日にいる職員で対応できるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に内部研修を行っており、年2回おこなう避難訓練では、より実践に近づけて、夜間想定での訓練を実施している。今年度からは消防隊員立ち合いの訓練も再開した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の出入り時のノックや、電気を消す、点けるなど細かい部分でも確認、居室へ入る際の声掛けを徹底して行っており、ご本人様のお家という思いで支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	過度な介護はせず、ご本人様に選択をしていただく機会を作っている。ホームのスケジュールとしてはレクレーションになっているが、無理強いせず、食後にこの後どうされますか？等ご本人様の希望に寄り添った支援に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様のペースに合わせて職員は落ち着いて支援を行っている。その為に、職員が余裕をもって接することが出来るように日々、業務改善を行いながら、気持ちに余裕が持てるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お着替えをする際は、どの洋服を着られますか？やこの洋服は好きじゃないと言われた際も、ご家族様へ相談するなど、オシャレに関心のあるご本人様に満足していただける様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事の中で好きな物や苦手な物、食べにくい物などを把握し、その後の食事に活かしている。年に1度ご入居者様にアンケートを行い、献立作りに活かしている。おやつパイキングなど選択する楽しみも提供できるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日毎食後、チェックしており、水分も適宜提供できている。体調が優れない方等はその時の状態に合わせて居室で個別で提供したり、休まれている方は食事の時間を遅らせたり、ご本人様のペースに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員が付き添い、磨き残しや口腔内の状態を観察できるよう取り組んでいる。ご本人様ができることはしていただき、何か気になる事があれば、歯科へ相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは毎日観察し、その方に適した排泄方法の把握に努めている。また紙パンツではかぶれているなど、合わない場合は布パンツに戻し経過を見るなど、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩やレクリエーションなど体を動かす機会を設けている。また、水分補給ではあまり飲まれない方に対しても少しずつ勧めたり、食事の際に乳製品や食物繊維の多い食材を選ぶなどし、自然に排泄があるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様が楽しく入浴していただけるよう努めている。当日体調が優れなかったり、入浴の気分でない方へは無理をせず、臨機応変に対応している。浴槽を跨ぐことができない方へは機械浴を使用し安全に入浴できるよう取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動やご本人様のしたいことに取り組んでいただき夜間、安眠できるよう努めている。日中、気分の優れない方へは無理をせず休んでいただいたり、その時々状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人様が飲みやすいよう支援しており、状況に応じては薬剤師へ相談もしている。飲んだことで普段と違う反応があれば、看護師へ報告し、医師へ報告も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の楽しみごと(読書や新聞、時代劇の視聴、日光浴、塗り絵、音楽鑑賞、等)を把握し、その方の好まれることができる時間を設け、気分転換に繋げることができるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	感染症対策の為、外出などは以前に比べ減ったが近隣へのドライブなどは定期的に開催している。感染状況を見ながら、馴染みの美容室へ出かけたたりし、閉鎖的にならないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は事前にご本人様とご家族に確認しご家族様か担当の職員が購入している。買って来たものは確認していただいている。現金は預かり金としてホームで保管しているがご本人様が管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月2回の定期的な電話の支援を行っている。また面会制限中もあるが、緩和期間中は玄関先での面会をご家族様にも勧めている。また2ヶ月に1回居室担当者からご家族様へお手紙を送り、日ごろの様子をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、季節感を感じていただけるよう取り組んでいる。五感で不快に感じるようなことがないようにご入居者様の様子を把握し改善している。テラスも活用し阿蘇の自然を感じていただけるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの方との会話であったり、一人で過ごす時間など、ご本人様がその時したいよう取り組んでいる。お互いが尊重しあいながら生活できる環境作りに心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されてからも家で使われていたタンスや湯呑等を持参していただき使い慣れた物を使用されている。居室の模様替えもご本人様と一緒に考え心地よく生活できるよう取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スペースは広く取り歩行器や車椅子などでもUターンが容易にできるよう工夫している。トイレで待たれる方専用椅子を設置したり、洗面台付近にも椅子を用意し安全に生活できるよう取り組んでいる。		